



米本隆記 議員

【米本】5月17日に受け付けた脳ドックは、30分ほどで予定人数の150人になりキャンセル待ちになった。昨年度もれた人も、今年度

関心の高い脳ドック!

町長 問題点を検討

応募を認めた。今年度、もれた人は来年も応募できるのか。このように関心が高い検診を継続するためには、公平を保つことが行政のつとめと考える。今後、この脳ドックの応募方法について、どう考

えているのか。【町長】受け付け開始時には、約30人が玄関前に並んでおり、電話も込み合いなかなかつながらない状況であった。9時2分には、定員に達し、その後キャンセル待ちとして受け付けた人が250人になった。今回その費用を増額提案している。キャンセル待ちとして追加をしているので、今年度対象の人は、来年度受診は考えてない。

配られた受診募集チラシ

【米本】大山ブランドとして力を入れていた、ピーナッツ。こんにやく。3年間が経過し現在はどうなのか。ピーナッツの販売は今後どうなるのか。こんにやくは香取の名前はなくなるのか。何のためのブランド開発だったのか理解できない。また、町内産品を販売し、宣伝するのが

大山ブランド開発は?

町長 支援をしていく



原材料の出荷のみにしたこんにやく芋

公社の役割ではなかったのか。大山ブランドの開発や公社の販売についてどう考えるか。【町長】ピーナッツはミツヤが撤退した後、系列の子会社が製造し、生産者が販売を手がける。寿マナックから「こんにやくは大山山麓で栽培している他の生産

者のものと混ぜて商品化」の提案があり、原料出荷に専念することを得ることを選んだ。恵みの里公社としては、ピーナッツの新たな展開と同じく、産地商社として、流通・販売面で支援をしたいと考える。